

特別講演

「社会性」という視点からみた心の健康



村井 俊哉（京都大学・精神医学 教授）

[司会] 日比野 英子（京都橘大学健康科学部）

松下 幸治（京都橘大学健康科学部）

「社会性」とそれを支える「脳」という観点から、心の健康とは何であるかについて、一つの視点を提供します。また、そのような視点で様々な精神疾患をみた場合、教科書的な視点とは違った視点からの病気の理解の仕方がありうるかも、という提案を行います。

「社会性」という多様な心の働きの中には、社会の中で自分が何を目的にどう振る舞うかという「価値観」も含まれてきます。価値観には大きな個人差があり、このことが人間のダイバーシティ（多様性）の源となっています。対人援助職の立場にある者は、このようなダイバーシティに対して寛容であることが必要であろう、という主張を行います。

【講師略歴】

1966年大阪府生まれ。1991年京都大学医学部卒、1998年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。マックスプランク認知神経科学研究所、京都大学医学部附属病院助手などを経て、2009年10月より、京都大学大学院医学研究科教授。専門は、精神医学全般、神経画像学、高次脳機能障害の臨床。著書に「精神医学の实在と虚構」（日本評論社）、「精神医学を視る『方法』」（日本評論社）、訳書に『現代精神医学原論』（みすず書房）、『一流の狂気：心の病がリーダーを強くする』（日本評論社）などがある。